

令和2年度 第2回羽島市総合教育会議 会議録

日 時	令和3年1月21日（木） 午後1時30分から午後2時40分
場 所	本庁舎4階 第1会議室
出席者	<p>(出席委員)</p> <p>今井田眞千子委員 黒田淳委員 今枝甫委員 春日民奈委員 森嘉長教育長 松井市長</p> <p>(事務局職員)</p> <p>宮川企画部長 不破教育委員会事務局長 小川教育総務課長 山田学校教育課長 豊田給食センター所長 酒井生涯学習課長 安田図書館長 箕浦スポーツ推進課長 田中総合政策課長 坂倉同課係長 吉田同課主査</p>
内容	<p><u>1. 開会</u> (会議の概要説明、資料確認)</p> <p><u>2. 挨拶</u> <u>(市長)</u></p> <p>昨年12月21日に3期目の任期を始めることになった。その中でも重要なファクターである教育関係について、本日出席の皆様方の助言や教育現場の声、保護者の方々の意見に基づきながら従来以上にしっかりと貫いていきたいと思う。</p> <p>昨年7月に開催の今年度第1回の総合教育会議では第一波の襲来直後ということで、コロナ感染症対策下における学校の教育活動の関係について、皆様方から意見をいただき、その後、所要の措置を講じてきたところである。</p> <p>教育現場では、通常以上にしっかりと対応をしていただいたが、やはり全く罹患が無いという状況ではなかった。そのつど学校教育課を中心に施設関係の営繕や除菌等をしっかりと行いながら、所要の対応をしていただいたところである。改めて、教育現場の方々に深く感謝を申し上げる。</p> <p>本日は資料6に基づき、皆様方から忌憚のないご意見を賜りたいと思う。よろしくお願いたします。</p> <p><u>3. 議事</u></p> <p><u>(1) 羽島市教育振興基本計画の主な事業進捗と今後の方向・取組みについて</u></p> <p>小川教育総務課長、山田学校教育課長、酒井生涯学習課長、箕浦スポーツ推進課長から、羽島市教育振興基本計画の主な事業進捗と今後の方向・取組みについて、順次説明した。</p> <p><u>意見交換</u> <u>(市長)</u></p> <p>まずは、資料6の1ページ、教育総務課関係の事項について質問、意見があればお願いたします。</p>

無いということであれば、教育総務課長から福寿小学校の関係と LED 化の現在の計画予定について、補足説明をお願いします。

(教育総務課長)

福寿小学校はもともと各学年 2 クラスであったが現在、3 年生までが 3 クラスの状況である。児童数の増加により学級数が増加するという形で、現在、体育館の東側に 3 教室、会議室、通級指導教室の 5 室分を想定した 2 階建ての建物を計画し、現在設計を進めている。来年度工事を行い、その後、新しい建物に備品等を搬入、令和 4 年 4 月から使用可能となる計画で進めている。

学校照明の LED 化については、この 3 年間で実施したトイレの改修により、すべてのトイレ照明ではないが LED 化を実施した。教室については、現在、安定器が故障等した箇所について交換する機器が無いので、随時 LED 化を実施している。

今後は国が定めている期間内で LED 化を進める必要があるため、まだ具体的な計画は無いが、随時 LED 化を進めていく予定である。

(市長)

市内でも唯一、町内人口が増えている関係で、福寿小学校に新たな学校校舎を計画的に造っていくところである。

それでは資料 6 の 2 ページから 4 ページ、学校教育課所管の部分について、質問、意見がありましたらお願いします。

(委員)

羽島市は先進的に情報機器を導入いただき、教育の幅が広がったと思っているが、コロナ禍でなかなか対面教育ができない中、先生方は今後の教育について色々と模索されていると思う。対面教育だけでなく、遠隔教育もやるべきという方向性が文部科学省から出ているということも聞くが、来年度に向けてそういう事業を常態化、取り入れていく考えはあるか。

(教育長)

常々、国や県の方向を踏まえて、いわゆるハイブリッド型、対面授業とオンラインという、新型コロナウイルス感染症の感染状況に関わらず校長会でもお願いしている。

施策的に現在のところ大きなものは GIGA スクール構想を推進していくということだが、導入する前から家庭科や音楽の授業など、色々な教科において既に ICT を駆使して、子どもたちが一斉に相互の意見を大型プロジェクターに映し出し、従来のような隣同士で話をしなくてもいい、という形の授業は実際行っている。

また、市内でも新型コロナウイルスに罹患している子ども、もっと言えば、家族が罹患され濃厚接触ということで、自宅待機を 2 週間近くしなければいけない子どもがみえる。こういった場合は当然、学校に出て来れないため、臨時休校中で培った色々なノウハウにより、使用する機器は家庭のパソコンやタブレット、場合によってスマート

内容

フォンを使用いただいているが、対面授業や家庭訪問では無く、ほとんどの学校でICTを駆使して授業を展開いただいている。できる限りその教科の本質を外さずに、対面とオンラインを駆使しながら学習を展開していきたいと考えている。

(委員)

今日的課題というのはいくつかあり、その中で特にコミュニティ・スクール、学校運営協議会と情報教育の推進をピックアップして進捗状況を説明いただいたが、平成29年から学校運営協議会が発足し、制度的には年々整ってきたと理解している。ただ、地域の教育力などをどう取り入れて、実際の学校現場に生かしていく具体的なところで、人員配置や制度的なものが張り付いたが、そういった部分の推進をお願いしたいというのが1点目である。

それから、情報教育も環境整備が整って、こういったコロナという非日常的なものが突然に起こり、オンラインということで整理がされていった中で、今後、具体的にソフト的な面でどのように進めていくかという部分が課題になると思う。

また、資料6の3ページ、校務の情報化の推進ということで、桑原学園と中島中学校が研究指定校として実践するわけだが、ぜひこの推進の成果、ノウハウを市内の他の学校へも共有して、羽島市が研究指定を受けて全体的にレベルアップしているというのが示されるとより良いのではないかと思う。

内容

(教育長)

1点目のコミュニティ・スクールの推進に関わって、羽島市は他市町に先んじてコミュニティ・スクール化を進め、制度的にも整ってきた。ただ今年度はコロナ禍であったということで、若干その取組みが足踏みした感は否めないところである。このような状況の中、資料にも記載の、小中一貫教育がコミュニティ・スクールを推進する上でもキーワードになると思う。子どもは小1から中3まで繋がって学習していて、学校や先生は変わるが、子どもたちはずっと学び続ける、地域で生活していくことに変わりはない。現在のところ、コミュニティ・スクールは実は小学校区、中学校区、3小1中の場合には四つの協議会があるという状況になっており、地域で子どもを育てるという観点から、今後はその子どもレベルの一貫という観点と、いわゆる子どもを育てるための地域の一貫、連携という観点の二つを視野に入れながら、コミュニティ・スクールもあり方を再度検討していく必要があるのではないかと考えている。

2点目として、ICTを進めるためのソフトについては大変有効であるということで、資料6の4ページに記載の、ロイロノートスクールといったものを起点として進めていきたいと考えている。ロイロノートとは、子どもたちが自分の考えを書いたものが一斉に大型プロジェクターあるいはテレビ画面に提示されるということで、対面でやらなくても、今までは先生がコントロールしていたものが、子どもが選んで誰と交流したらいいか分かる。例えば、30人いたら30人の考えが一斉に分かるという機能を持っており、一つの例だが、こういったソフトを少なくとも今年度、既に導入しており、来年度以降も有効な機能があるものについて導入していきたいと思う。

ICT で1 2月議会でも質問があったが、例えば先ほどの自宅で学習することを余儀なくされている状況や、あるいは不登校の子どもが学習する際に機器、通信、ソフトが必要になるため、現在はどちらかということ子どもたちが持っている機器で実施しているが、今後はそういったものを市が検討するかどうかについては、当面の間、持ち帰りは羽島市としては予定していないので、そのような状況の中で色々と工夫していきたいと思っている。

(学校教育課長)

3点目の校務支援について、学籍や名簿はすべての学校で現在対応できている状況だが、特に高校入試などに関わっての調査書データ送信等については間違えてはいけないということで、慎重に進めてきた。そのことを2月から桑原学園で間違えないようにできるか実施し、うまくいけば来年度以降に大規模校への展開を考えている、というような流れである。

(市長)

義務教育学校が情報教育の先例をつけたということだが、市内は大規模校から非常に小さな学校まである。そのような中で、保護者の方に例えば、南部の学校では非常に進んだ情報教育を受けているが中心部ではそのあたりどうなのかというような情報提供や、学習関係の進捗状況の説明などの保護者へのフィードバックの考え方について説明をお願いします。

(教育長)

情報教育もさることながら、先ほどの桑原学園については義務教育学校ということで、色々な意味で子どもたちの姿や、あるいはデータの的にも効果をあげていただいている。とりわけ、最近よく言われている、誰一人取り残さないという SDGs の理念の観点からも、ちょうど今、産官学で共同研究をしているデータ等も踏まえながら子どもたちの学力についてデータを取ることは可能であり、そういったもので返していけることが可能ではないか、と考えている。

これはあくまでもこれから実際に ICT に取り組んだ際、どういう結果が出るかだが、先進研究がもう既にあるので、冒頭で申し上げたハイブリッドであることが大変教育効果が高まると考えている。ICT でできれば学校に来なくてもいいのではないかと、という話もあるが、実際には対面授業の中で、例えば学習内容が分かった、理解した子が理解していない子に指導することによって、学力の全体のレベルアップが図られると言われている。これは桑原学園の教え方の理念と全く同じで、上級生と下級生が同じ教室で勉強することによって、上級生も下級生に教えることで定着を図り、下級生は当然、上級生から勉強を丁寧に教えてもらうことができる。研究者が実際に出しているデータもあり、そういったものも踏まえながら、保護者の方に ICT を活用したものの、一方で対面も有効に使いながらやっていくことが、きっと説得力のあるデータを示せるのではないかと考えている。

内容

(委員)

オンライン授業はコロナ陽性者や待機児童、不登校の子に対してはすごい効果的だと思うし、それから先ほどのロイロノートスクールでも、自分で言えないが書ける、という子は大丈夫だと思う。ただ今の形を見ていると、対面で自分の意見を言うこと、人に伝えることがすごく下手というか苦手になってきていると思う。やはり最終的には人と人の関わりにはいかないといけない。偏らないようにお願いしたいと思う。

(市長)

対面でないのは私どもも仕事柄、非常に反応がわかりにくいところがありますが、実際に子どもの感触などはどうですか。

(学校教育課長)

コロナ禍の授業を廊下から見させていただき、濃厚接触にならないようにということで、距離を取るのは大前提になっている。濃厚接触の定義から、15分以内で1m以上離れて、マスクをして会話はしても良いというふうに捉えているので、例えば理科の実験やグループでちょっと相談するようときも、マスクをしながら短時間ということをしっかり心がけてやられている。黙々とiPadに向かいながら操作をする場面もありつつ、対面でちゃんと心が通うような話し合いというのも最低限はやっている。ただ、今回緊急事態宣言が出て、それ以降は申し訳ないが、学校には合唱はしない、ということは重ねてお願いしているという状況である。

内容

(委員)

話を聞いていて気になったのは、各学校に情報教育、ICTを用いた教育がどんどん入ってくると思うが、その専任の先生は各学校にいるのか。

(学校教育課長)

今年度はGIGAスクール担当教師というものを羽島市は独自に任命して、各学校に2、3名ということで位置づいており、今後の活躍にかなり期待をしている。

(市長)

順次人数も増やしていただいて、あとは国等との調整になると思う。

(委員)

家に環境が無い子どもは全く初めてで、既に家で使い慣れている子とは多分スタートからしてずれが生じていると思うが、そこはできない子に合わせての進め方で教えていただけるのか、できる子、できない子という形で分けられるのか。できる子だけが進んでいく、できない子はよく分からないままに進んでしまうのが少し心配だが、そのあたりを教えていただくとありがたいと思う。

(学校教育課長)

ご意見の部分は指導計画というもので検討中だが、例えばアプリやZoomの使い方、先ほどのロイロノートは全員使えないといけないと思っている。竹鼻小学校が2週間ほど前にロイロノートを使用して家庭科の授業を実施されたが、そこでは30名ほどいる生徒が冬の寒さ対策に必要、適切な服装は何かということを書き、それを写真に撮り、全員に送って、それを見ながらお互いの良いところを意見し合う学習を全員がやりきっていた。

ただし、スキルアップを図っていく過程でやはり個人差があるので、自主学習や家庭でiPadが使えるようになった場合には、それぞれの能力、スキルに応じた活用方法というものも今後考えていかなければいけないと思っている。

(市長)

必ずスクリーニングして順次拡張しているところだが、教育長何かあればお願いします。

(教育長)

羽島市の場合にはGIGAスクール導入前から、小学校、中学校それぞれiPadを導入している。小学校低学年の子が使うことは少し難しいと思うが、少なくとも中学年、高学年、そして中学生については、今回GIGAスクールで導入したiPadを初めて使うということはまず無いと思う。導入以前から学校訪問させていただくと既に、いろんな教科で、場合によっては体育、図工、美術など、いわゆる実技の教科でも活用している授業が見られる。GIGAスクールで導入したiPadに初めて触れるということは無いと思う。

(市長)

資料6の5ページから7ページ、生涯学習課の所管事項について意見、質問があればお願いします。

(委員)

今年度は講座が結構休講になった。来年度も休講のままなのか、それとも何か対策をとりながらやっていくのか聞きたい。多分、現在実施している講座が途切れたら、2年間とか無くなると、次の講座を集めるのがすごく大変になると思う。コロナがあっても当たり前前に実施されていくのか、というのを少し聞きたい。

(生涯学習課長)

やはりやっていくことが必要だと思う。対策を取ればできることは色々あると思うので、例えば距離を取る、人数を減らすということも一つだと思うし、ライブ配信が可能ということであれば、そちらも視野に入れながら進めていきたいというふうに考えている。

内容

(教育長)

補足させていただくが、講座についても先ほどの学校教育と同様、新型コロナウイルス感染症についての知見が溜まってきたこともあり、今までは全て中止としていたが、開催できるものは開催する、ただし大人数でやることは難しいという状況なので、先ほど課長が申し上げたように、場合によってはオンライン、テレビ会議、動画配信なども必要ではないかと考えている。ただ、そのための通信環境、あるいは動画作成のための労力、機器、経費などが必要になるのでは、と考えている。

(委員)

同じような思いでいるが、「学び Eye はしま」や、地域に11のコミュニティセンターがある中で色々な講座、例えば50回程度開講していたのが現状、ほとんど休止状況であって、ただ緊急事態ということで2年続くと、役員も変わる。その中で高齢化していくということで、活動の停止をもう1回検討し、もう一度前の状態に戻すにはかなり努力がいるのではないかと思います。私も講座に出ているが、人生100年時代と言いながら高齢化してきているので、なかなか維持が難しいし、ほとんどの接触的、運動的、料理的なものは休止している。その中でこういった講座を立ち上げていくのか。コミセンがよく実態を把握しているので、新たにこういったことならまた復活させて、人の触れ合いを醸し出していくかということのを少し配慮しないと難しいかな、と率直に思う。

(教育長)

学校現場も前回の緊急事態宣言の際、3月～5月臨時休校したが、今回は一部、活動を停止している活動はあるが、従来どおりやっている。これと同様に生涯学習、講座をはじめとして、対象の年齢等はあるが、先ほど申し上げたように対面とオンラインでどうやってやるのか、家庭のみならず、例えば一つの会場で二つの部屋に分かれて、一方の部屋で視聴いただいて活動するのは可能だと思うので、そういった活動の可能性をまた検討していく必要があると思う。

(市長)

生涯学習だけに関わらず、実は午後8時ということで、各種公共施設の使用も打ち止めになっている。これはほぼ県下の統一基準であるが、中には午後7時まで、あるいは午後6時までというところもある。このため人を集めることができないという形になり、例えば市民協働課で実施のタウンミーティング等についても、ほとんど開催が不可能であり、その代替措置として動画を作成し周知しているところである。対面ではないデメリットが非常に大きく、意見交換の部分が最大の課題になっているところである。

そのような機会がどんどん少なくなれば担い手の方もやはりネガティブな思いになるので、今後もそのような関係をどのように是正していくのか、例えばどこかの先進事例に倣いそれを羽島市に合うよう改良するようなことをしていかないとイケな

内容

い。今後もコロナだからできない、催しも行えないということでは地域活動そのものが枯渇してしまうという思いがある。今後の大きな課題だと思っているが、何かアドバイスがあればいただけるとありがたい。

(委員)

なかなか良い案は無いと思うが、従来の発想にとらわれなくて、新たなものをやはり知恵を絞って、意見を募集するなりして、密にならない形で講座的なものを人数制限しながらやらないと、現在はほとんど休止である。これでは本当に再開しようと思っても、少し不安がよぎってしまう。

(市長)

例えば色々な講座もあるが、講師の方と調整しながら、1回のを2回でやるとか、そういうことが可能であれば、補うということでも今後検討していきたいと思う。また意見募集という形で、色々な方の知見を集めて、それから先進事例の調査も生涯学習課でしていただけるとありがたいと思う。

(委員)

内容

今、話がほとんどあったので、私も同じ思いでいる。特に講座に関しては、学校の授業よりも少しできていないということで、かなり深刻ではないかと思う。お年寄りの中にはそういう講座を大変楽しみに待っている方もみえるので、色々と工夫しながらぜひ進めていただければと思う。

(市長)

先日町屋ギャラリーで、子どもと父親との絵描き教室において少しユニークな催しを行ったので、生涯学習課長より紹介いただきたい。

(生涯学習課長)

ただいま、子どもでも楽しめる美術館をコンセプトに、今年度第3回の展覧会をやっている。町屋ギャラリーの第一展示室では、床に大きな紙を敷いて、そこに思い切ってクレヨンで書いてみようという場所があったり、2階では石に絵を書いて何か物を作る、紙に竹を半分に割ったようなハンコを押す、筆で少し絵を書いたりするといった体験コーナーを作っている。また、今回の作品は可愛らしい絵本作家の方の作品を並べているので、それに関する絵本を岐阜県図書館から借用し並べたり、図書館の方で毎年小学生、中学生を対象に実施している絵本コンクールの最優秀作品を製本して、本当の絵本のようにして見られる形で展示したりするなどしている。本当に気軽なということで、今までの年代層とは違い、小さい子を連れて家族で一緒に来ていただいている。一度足を運んでいただければと思う。

(市長)

実際の入場者数にカウントされないような素敵なイベントも順次行っている。また、著名な作家の作品も同じ会場の中で展示しているので、そのような努力をしているということでご理解いただけるとありがたい。

それでは資料6の8ページ、生涯スポーツの関係について意見や質問があればお願いします。

(委員)

内容

総合型スポーツクラブの充実で、部活動のクラブ化の推進を図るとあるが、これは教員の職務等を軽減するには良いが、ただ指導される方が結果や経過を重視すると、おそらく成績の方に行ってしまう。そうすると経験者ではない子、それからただやりたい子は過度な負担を感じてしまうというような話も聞いたことがあるので、要するに上手な子ばかりではないが、楽しみたいという子もいるので、そういう子を排除しない形でクラブができれば良いのではないかと思う。

(市長)

いただいた意見の心配のないような形で配慮した、民間と学校現場とのコラボレーションをしている先進的な取組みについて説明をお願いします。

(教育長)

市内には現在、三つのスポーツクラブ、モア、なごみ、そして南部スポーツ村があるが、全ての運動部活動を移管するのは竹鼻中学校である。モアや南部スポーツ村についても、一部を移管している状況である。委員ご指摘の点についても他のスポーツクラブの状況を踏まえながら、子どもたちがよりよいスポーツライフを送れるように検討していく必要があると思う。

ただ、竹鼻中学校となごみスポーツクラブの間では、スポーツを楽しみたいという子どもには、基本的に学校部活が良いだろうと。競技力を高めたいという子どもはスポーツクラブが良いだろうと。学校のスタンスとしては、例えば平日の部活動と休日のスポーツクラブと競技種目が異なる場合があっても良いと、それぐらい柔軟に考えているようである。

かつて、平日は学校の部活動、土日は硬式テニスや硬式野球など、いわゆる学校に無い部活をやっていた子たちがいた。その子たちは学校部活を十分楽しみ、なおかつ自分の専門的なスポーツクラブもやっていた。そういったことを考えると、場合によっては平日は部活動をするが土日はやらないという形も選択肢に入ってくるのではと思う。そうした際に試合に出るか出ないかということが問題になると思うが、それも含めて今後実践しながら研究し、子どもたちにとって良いスポーツライフを送らせてあげたいと考えている。

そして一番根底にあるのはスポーツについてもやはり地域の方が指導するのが基本的なスタンスであるため、地域の方にも競技的な視点、スポーツクラブの方にも教

育的な視点を持って指導にあたっていただきたいというのが根底にある願いである。

(市長)

本来であればいわゆる会員制の民間の特殊なスポーツ、例えば野球などは本来、その組織の本部は大原則として平日の練習を禁止している。そして教育長が申し上げたように、平日は他のスポーツでもいいから学校でお願いします、休日に関しては例えば硬式野球で、というしっかりとした決まりがあるが、このルールを守らないチームがある。そのあたりについて常に教育委員会と話しをしているのは、スポーツ指導者のいわゆる資格、マナー、子どもに対する教え方などのしっかりとした研修を実施するシステムをスポーツ協会とも今後進めていくということで、スポーツ推進課で進めているので、ご理解いただければと思う。

(委員)

スポーツ教室を機会に柔道を始める子が結構おり、危険な、何か怪我するスポーツというイメージがある中で、始めるきっかけとしてありがたいものだと感じている。今はコロナの関係でどうしても仕方ないと思うが、夜8時に道場が閉まってしまう関係もあり、指導者が来ていただける時間等を考慮すると、ずっと休止状態になっている。子どもたちは感染しにくいとか色々なことを考えると何かやりたいなという思いと、でももし何かあるといけな、という思いの中で葛藤しているところであるが、良い方法などがもしあればと思う。

(市長)

例えば分散して行う場合には施設の使用は可能だが、指導者が不足する。このため指導者の都合上使用施設が限られてしまう。密にならないような形、特に格闘技は接触に極めて制約があるので、そのあたりの課題はあると思う。したがって現在、教育委員会全体で生涯学習、生涯スポーツ関係のしっかりとした指導ができるような、プロのボランティアを育成する計画づくりについても進めているところだが、委員が今言われたように、現在悩んでいる子どもとのマッチングができるまでには時間差がどうしても出てくる。そのあたりについては、施設利用の方々とのヒアリングの機会を常にスポーツ推進課でもっているなので、ヒアリングをし、色々な課題についての対策を練っていきたいと思うが、教育長、そのようなことで良いですか。

(教育長)

今の点について、柔道や剣道など、武道については、競技団体のガイドラインもあると思う。そのため、例えば感染者の人口当たりの比率も見ながら、市長が申し上げたように、色々なヒアリングをして検討させていただくが、スポーツ競技団体から示されている方針やガイドラインを柔道についてはきちっと守っていただいているという印象を持っている。そうした点からも、子どもたちの「やりたい」という思いに、そのまま応えるのは、少し難しい課題なのではないか、ということは申し添えさせて

いただく。

(市長)

課題としてしっかり受け止めさせていただく。

(委員)

スポーツにはもちろん楽しむスポーツもあるし、どんどん上位を目指すスポーツもあると思うが、本来は指導者にその両方を指導していただけると嬉しいし、特にスポーツを楽しんでいる人が時々、有名な指導者に教えていただくと上位を目指してみようかな、とかそういうことがあると思う。本来は部活とクラブという形に分けないで、スポーツを楽しむというのが本来の姿ではないのかな、という感想を持った。

(市長)

その方向性で現在、当市は進めさせていただいているので、いわゆる民間の方もスポーツマスターであると、そういう形の研修を今後とも充実していきたいと思う。

(委員)

要するに、昔は高等学校でも必修クラブと部活動が別個だった。必修クラブは色々な楽しいことを文化系でも良いので、部活動とは別に1時間やりなさいと。本来色々なスポーツクラブができてきたというのは、多様な人のニーズに対応して楽しく、というようなことが結構入っていた。ところが、学校の部活動となると、どうしても中体連、高体連という大会があり、いわゆる技術力や選手強化的な面がどうしても強く出るということで、そこが今後混同するとまずいと思う。そのあたりのすみ分け、指導者の派遣や大会にどちらが監督として出るのか、団体戦のオーダーなどを誰が決めるというところは今後の課題だと思う。こういうことを働き方改革の一環で導入すると、現在の社会的な情勢でいわゆる学校体育と社会体育のあたりをどうやってすみ分けしていくかということが今後の課題として様々な希望やニーズがあるので、そのように受け皿がまだ整っていないのではないと思う。

(市長)

貴重な意見をいただいた。私個人として、国の教育再生首長会議の委員であり、今のような意見をしっかりと申し伝え、国についてはそのような方針を定めることをお願いしたい。

(教育長)

先ほどの部活動のクラブ化について、実は昨年12月にスポーツ庁が当市の取組みについて視察にみえた。これは単に、竹鼻中学校となごみスポーツクラブだけの取組みにするのではなく、市全体としても今後、ご指摘いただいた部活動クラブ化の移管に関わってどうしていくべきかについては、プロジェクトチームやワーキングチーム

を立ち上げて、関係する代表者の方に入っていただきながら、本当によりよい移管のあり方、部活動のクラブ化のあり方について進めていきたいと考えているところである。

(市長)

それでは資料6に基づく質問、意見は議了とさせていただく。最後になるが、私も教育長、教育委員会は意思統一を図っているが、大きな課題が議会等からいただいている。

1点目、生涯学習部門を一般行政部門へという前向きな意見が出ている。この関係の市の取組み予定を教育長からお願いします。

(教育長)

岐阜県並びに県内市町村においても既にいわゆる生涯学習、社会教育、そしてスポーツについては首長部局、羽島市で言えば市長部局に移管しているところがある。その結果、教育委員会は学校教育だけを専らとしているという状況があり、これについては聞き取り調査等を行い、成果と課題を検討し、12月議会でも市長並びに私も答弁したが、一定の検討期間を設けて移管することについて、適切な時期に判断していくというようなことで進めさせていただきたいと思っている。

(市長)

コーディネートする人材が必要なため、そのような選択も踏まえ、是非について新年度、しっかりとした検討を深めていきたい。

2点目は、再三この会議でも話題になる義務教育学校については桑原学園の成功例があり、私も市民の方から次はどうするのか、という質問を受ける。この関係についても教育長からお願いします。

(教育長)

教育委員会のみならず、校長会でも義務教育学校のことについては、交流を図っていただいている。教育委員会としても、義務教育学校の先進事例や知見を生かしていきたいということで、小中一貫教育のあり方についてさらに進めたいと思う。既に、竹鼻中学校、竹鼻小学校、福寿小学校は、竹鼻学園構想という形で、取組みを計画しています。例えば小学生が、中学校で授業を受けるとか、あるいは既に児童会と生徒会が一緒になって話し合いを持っているというような形もある。羽島中学校では先日もマスコミ等で紹介があったが、コミュニティ・スクールを通して防災について、校区が一つとなって取り組んでいることを起点として、中学校区での学園構想、小中一貫教育というものを今後検討していきたいと思っている。

(市長)

2点、重要な課題ですので、保護者の方、そして学校現場の方等との意見を交わし

ながらしっかり進めていきたいと思うので、ご理解をいただけるとありがたい。

(2) その他

田中総合政策課長から、所要の事項について、説明した。

(閉会 午後2時40分)